フクシマ環境未来基地

平　成　２　５　年　度

平成２５年４月１日　～　平成26年3月３１日

事　業　報　告　書

ミッション

1) 若者の力で、環境問題、地域の抱える課題を解決していく
2) 社会貢献を通じ、次の地域・社会を担う若者をはぐくむ
3) 地域の価値や人のつながりを再生し、市民の手による新しい社会をつくる

団体概要

≪　団体の概要　≫
名称　　フクシマ環境未来基地
住所　　〒970-1376　福島県いわき市三和町下三坂字永久保40
TEL/FAX　0246-85-2777
MAIL　　fukushima@conservation-corps.jp
URL　　http://fukushima-c-c.jimdo.com/

〇形態　任意団体
〇設立　2011年5月10日　事務所開設　8月
〇職員
　非常勤　3名
　会員　一般会員　団体会員　協力会員

設立の経緯

平成23年3月11日に起こった東日本大震災により、甚大な被害が発生しました。
栃木県で環境保全に取り組む、NPO法人トチギ環境未来基地でも、復旧、復興、そしてその先の新しい社会づくりに向けて、NPOは何ができるのかを話し合い、具体的な活動を始めました。

長期的に活動を継続していけるように、活動先を福島県いわき市に決めました。

トチギ環境未来基地の、若者の力を引き出すこと、チームによる長期間のプログラムを実施するノウハウをもとに、いわき市に根ざした活動団体を設立することとなりました。

平成25年度の主なニュース

① トチギ環境未来基地から分離。いわき市の団体としてスタート！

より地域に根差した活動を実施できるように、フクシマ環境未来基地としてスタートしました。
運営も、財政も、独自に行い一つの団体としての活動が始まりました。

② 事務局移転。森林整備や農業にもチャレンジ。地域の方々へのインタビューも行いました。

いわき市三和町に事務所を移転し、より自然の中で地域に根差した活動を展開しています。
Conservation Corps開催も視野に入れ、ボランティアツアーなどを開催し若者の力で地域を盛り上げることができるよう基盤づくりを行っています。

③ 借り上げ住宅支援事業として、工作教室を毎月開催中！

去年は仮設住宅を中心にプランターづくりの会を開催しましたが、今年度は借り上げ住宅にお住いの方に対して、工作教室を行っています。限られたスペースや条件のあるサロンでも開催できるように小物の製作をしています。

活動実績（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

活動日数　92日　　**参加者数　1,948人／日**

※NPO法人トチギ環境未来基地との共催事業である、海岸林再生活動参加者含む

事業

ボランティアツアー運営
各種ボランティア受入れ
いわき市内の借り上げ住宅支援サロンにて工作教室開催
地域の行事参加
農業体験
海岸林の整備作業
　※トチギ環境未来基地、いわきの森に親しむ会と共に）

助成

今年度は次の助成をいただきました。
赤い羽根共同募金ボラサポ
全労済地域貢献助成（環境分野）
公益信金うつくしま基金

ボランティアツアーの開催

春

春は、森づくりの作業、地域活動拠点の整備作業を中心に行いました。

薪　割　り

森 林 整 備

活動拠点の整備

地元の人も手伝いにきてくださいます

ボランティアハウスきれいになりました

地元のたちへ活動紹介と交流会

夏

畑ではじゃがいもを育てました

うさぎ山にて

地域での運動会

ソバの種まき

運動会でエイサー披露

秋

ソバの収穫

近くの神社のお祭り

屋台の手伝いなどしました

若者の視点から、下三坂の魅力を考える

稲刈り

豊作でした

冬

うさぎ山を背景に

フィールドワーク　三和の面白いところ

いわき市の現状についての講話

ボランティアツアーでは、地域の人たちのご協力も頂き様々なプログラムを実施することができました。やはり三和町下三坂においては農業の再生に期待が高く、若い人たちが田んぼや畑で作業をしている姿を見て喜んでいただくことができました。また、参加者にとっても、同じいわき市でも沿岸部と内陸部では状況が全く異なり、それぞれに課題を抱えていることを知る機会となりました。

ボランティアツアー参加者の感想

・ニュースなどで見聞きするだけだと、福島と聞くと一括りにしてしまいがちだけど、実際に活動に参加してみて、例えばいわき市だけでも場所によって状況が全く違うということがよく分かった。

・福島の農産物は安全にすごく注意をはらって出荷をされているということと、農家の人たちの農業にかける思いを知ることができてよかった。

・中山間地では若者が本当におらず、地域や農業を支えてきた担い手が将来いなくなるのではないかという不安をみなさんお持ちなのだということが分かった。活動する若者への期待も感じられてがんばりたいという気持ちになった。

・震災から時間がたち、日常の中で震災のことを考えたり、友達と話したりする機会が減ってきたなかで、集まったメンバーといろいろ話せてよかった。復興に向けてできることを引き続き考えていきたいと思う。

・風評被害や過疎地の人口減少を食い止めるには実際に若者たちが地域に訪れる機会を増やすことが大切ではないかと思った。

成果と課題

◆ 成果

ボランティアツアーを中心にいわき市の中山間地である三和町下三坂を拠点に活動をすることができ、たくさんの人たちに実際に来て一緒に活動をすることができた。それにより、参加した人たちには多様ないわき市の現在と、それぞれの場所で起こっていることを知っていただく機会をつくることができた。地域の人たちには、若者たちが畑や田んぼ、森で一生懸命作業をする姿を見ていただき、元気がでた、新しいことをやろうという気持ちが起こった、将来に希望が見えてきたなどの言葉をいただくことができた。

ボランティアツアーの内容をつくっていくにあたっても、地元の人たちの協力を多く得ることができた。田んぼや畑を貸していただいたり、作業の指導に来ていただいたり、交流会などで一生懸命若者に伝えていただいたりと協力によって活動をより良いものにすることができた。そのような関係性づくりにおいても有意義な一年となった。

震災の影響を受けながらもなかなか注目されることがなかったいわき市の中山間地においてもボランティアの力でできることがある、ということを形にできたことが重要なことだと考える。短期的にすぐ成果がでるような事業ではないため、継続が大切である。次年度以降も今度は自主事業として継続をしていく予定である。

地元の方へのインタビュー等を通じて、農家の人たちの生活力、いざという時の対応能力の高さもよく分かった。地域で支え合うということが希薄になってきた都市部での生活に対して重要なメッセージを発信できるのではないかと考える。

◆ 課題

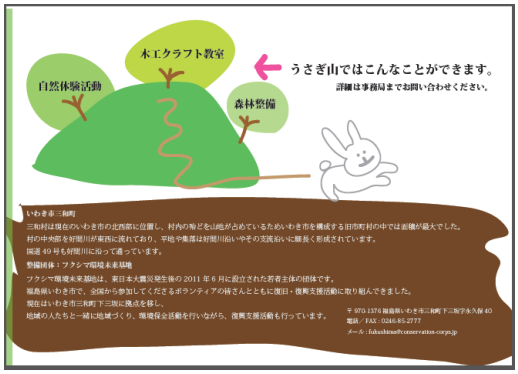
三和町の豊かな自然や穏やかな風景、田畑を活用して、いわき市で避難生活をされている方々との交流活動も計画し、地元の人たちとゲートボール大会などの企画も立案したが、市の中心部からは遠距離であるため参加者を得ることができなかった。三和のソバや木材を利用したプログラムを企画し、中心部に場所をかり、そこで活動を行う方法に切り替えて実施したが、十分に三和の良さを生かすことができなかった。もともとのいわき市民といわきに避難している人たちの交流の機会の創出は引き続き重要なテーマであり、次年度はもっとアクセスのいいところで、一緒に行うボランティア活動など自然な形で交流できるプログラムを実施することを考えている。

うさぎ山の整備（親子で遊べる森づくり）

いわき市三和町下三坂地区にある、小さな山をお借りして、「親子で遊べる楽しいもり」づくりを行いました。広葉樹の美しい森で、ボランティアのみなさんと気持ちよく作業しました。また、小さな子どもでも安心して登れるように歩道の整備と、山頂近くに遊べる広場をつくりました。うさぎ山を紹介するチラシや入り口に設置する看板もみんなでつくりました。

ホームページ

チラシ



子どもも遊びにきてくれました！

木工クラフト教室

クラフト製作リスト	
椅子	そうめん器
バランストンボ	竹笛
リュールシロフォン	動物名札バッチ
まつぼっくりの鳥	どんぐりボード
鉛筆	

今年度はサロン内でも製作できるようなクラフトに切り替え、借り上げ住宅に住まわれている方にも交流の機会を提供できるよう努めています。

いわき市内のショッピングセンターのサロンにて。いわき市民の方の参加も。

子どもの時以来の体験でとても楽しかったといっていただいています。

湯の岳山荘でそうめんの器づくりをしました。
サロン内だけでなく、いつもと違う場所での活動を提案しました。

海岸林の再生に向けて
「苗木 for いわき」プロジェクト

NPO法人トチギ環境未来基地、NPO法人いわきの森に親しむ会との共同事業

趣旨

東日本大震災に伴う津波により、いわき市四倉～沼の内のクロマツの海岸林も大きな被害を受けました。美しい景観と、海岸林本来の機能を取り戻すために、クロマツを植林していく必要があります。市民の力で海岸林の再生をすすめるプロジェクトです。

植林に向けた海岸林の整備作業も進みました。約1.5haの整備ができました。
企業ボランティアの方もたくさん参加してくださいました。

佐野市社会福祉協議会主催の
高校生ボランティアツアー

さくら市教育委員会

これからの時代を担っていく若者が活動に参加することで、プロジェクトも未来につなげることができます。

関連商品

自由空間、平商業高校の協力で、缶バッジできました

いわき市内のクロマツパートナーの、平商業高校さんと、障がい者施設自由空間さんが、缶バッジを制作してくださいました。デザインを自由空間の仲間の皆さんが、バッジの制作を平商業高校の学生さんが行ってくださったものです。1個300円です。

三和町下三坂の人々、インタビュー集

いわき市三和町下三坂を主な舞台にボランティアツアーを開始してから約1年が経ちました。その中で多くの地域住民のみなさんからのご協力をいただき、各種活動を行うことができました。これからも一緒に取り組みを行っていく上で、より地域に住んでいる人たちのことを理解し、関係性を築いていくことが重要です。

今回のインタビューは、地域のみなさんが、自分たちの住んでいる地域についてどのような思いを持って生活しているのか、今後への期待や負担を改めてお聞きすることと、震災以降もあまり注目されていない中山間地域においての東日本大震災震災時の様子をお聞き記録することを目的に行いました。主に近所の方々にお話しを伺いました。

インタビューでお聞きした内容は、今後の活動や若者へのメッセージにいかしていきます。
インタビューでお聞きした内容を要約、抜粋してご紹介いたします。

① H. Nさん（女性）

Q.　いつから下三坂に住んでいますか
生まれた時から80年間ずっと下三坂で暮らしている。2011年4月に旦那さんが亡くなり、
いまは一人で暮らしている。

Q.　下三坂の好きなところ、魅力を教えてください。
下三坂の人は人柄が良くて、みんな気持ちが優しいと自信を持って言える。

Q.　下三坂のこれからについて、期待すること、不安に思うことはありますか？
少子高齢化の進行と、独居老人世帯の増加
自分自身も高齢で一人暮らしをしているから、これからそのような高齢独居世帯が増えていくことと、そのような住民の暮らしぶりが心配。若い人が少ない上に、若い人がいてもなかなか結婚しない人が多いため、子どもがほとんどいない。地域から子どもの声がしたり、姿が見えると明るい気持ちになれるが、もう久しくしないのでさみしい。少子高齢化の影響はもうひとつあり、それは、畑・田んぼの耕作者が年々減ってきていること。このままでは、いつか田畑が荒れてしまうのではないか心配している。

Q.　下三坂を訪れる若者に期待することはありますか？
「地域・人に光を当てる灯台になってほしい」
学歴だけではなく、地域に出て社会勉強することも大切にしてほしい。そのような社会勉強の場として若い人が下三坂に来てくれると、明るいともしびが灯るようで嬉しい。若い人が下三坂に来て何をしたいのか、どんなところが面白いと思うのか知りたいと思うし、それらを聞くことで住民も活力をもらえる。
地域もこれからの問題を考えていくことが必要なので、地域の人と話し合いの場を持ち、地域の再生・活性化に向けて協働していければ嬉しい。

Q.　東日本大震災が起きた時の状況を教えてください。
昔は炭で暖をとっていたが、いまは電気ばかり。震災時に電気が使えなくなり、
電気に頼った生活に不安を感じた。自宅の隣にある200年の蔵が
崩れて落ちてしまったが、亡くなった旦那が大切にしているものだったから、
修繕した。

Q.　趣味・特技を教えてください。
短歌・俳句が昔から好きで書き溜めている。
ちょっと外を眺めていたりすると文章が浮かんでくる。
生活の楽しみのひとつでもある。

② T. Nさん（男性）

Q.　いつから下三坂に住んでいますが？
生まれは福島市。いわき市の市議会議員を務めていた。

Q.　下三坂の好きなところ、魅力を教えてください。
「福寿草の里・下三坂」
下三坂は福寿草の里と言われ、花が咲く春先には外からの見物客もいる。
福寿草が見れる地域は県内でも少なくなり、貴重な観光資源でもあるため、福寿草の種を増やしたり、観光客増加のための取り組みをしている。

Q.　下三坂のこれからについて、期待すること、不安に思うことはありますか？
地域活性の火付け役にもなる祭り・季節のイベントの担い手減少
イベントを開催すれば人は集まるが、運営側はそれなりに労力を求められるので、高齢化が進んでいるいま、地域で行事をするのが難しくなっている。イベントを作り上げていくために、住民みんなで取り組める仕組み作りと、それらを主体になって進めていく人たちの存在が必要。

地域に眠る観光資源の有効活用
下三坂には夏井川（隣町にある桜の観光名所）から続く河川沿いに、美しい桜が咲く。福寿草と同様、これらの美しい地域資源を活用して、下三坂を盛り上げたい。

Q.　下三坂を訪れる若者に期待することはありますか？
担い手が減少している地域行事の立て直し
若者が先導して、住民を巻き込みながら、イベントを実施していけたら嬉しい。

---

③ H. Nさん（女性）

Q.　いつから下三坂に住んでいますか？
生まれも育ちも下三坂。現在は、いわき市の市議会議員を務めている。

Q.　下三坂の好きなところ、魅力を教えてください。
ずっと下三坂に住んでいるので、あるのが当たり前と思っているものばかりで、
改めて聞かれるとむずかしい。地域外の人から言われて、地域の魅力に気付くことが多い。

Q.　下三坂のこれからについて、期待すること、不安に思うことはありますか？
住民同士が交流できる機会づくりの必要性
住民同士が集まれる機会がほしいと思っている人たちはいるが、人それぞれ温度差もあるのと、
先導していく人がいないのとで、なかなか実現が難しい。実際、手芸やバレーボールを通して
交流している例もあるので、まずは小さくてもいいから、趣味などを通して住民が集まれる機会づくりが必要。

Q.　下三坂を訪れる若者に期待することはありますか？
地域資源の掘り起こしと、魅力発信
自分のように、もともと下三坂に住んでいる人たちは、地域の魅力に気付かないことも
多いので、外からの声、若者の声は大切。

Q.　東日本大震災が起きた時の状況を教えてください。
震災から約1週間、電気が止まったが、居間には炭コタツがあるので、
それで暖をとっていた。また、発電機も備えている。しかし犬を飼っているので、
居間ではなく玄関口にある部屋にストーブを点けて、そこで犬と寝ていた。

④ T. Nさん（女性）

Q.　いつから下三坂に住んでいますか？
生まれてからずっと下三坂に住んでいる。

Q.　下三坂の好きなところ、魅力を教えください。
福寿草祭り
201年まで開催されていた祭りで、小名浜や平からの参加者が多かった、
雪がかかっていた方が風情があるということで毎年3月の上旬に行われていた。
漬物、惣菜、しみもちなど、地域の伝統料理を作る会があり、それらを「三和町ふれあい市場」（地域住民による常設直売所）で楽しむことができる。かぼちゃの収穫時期にはかぼちゃ祭り、じゃがいもの取れる時期にはじゃがいも祭りなどと、旬のものを使ってイベントを実施している。

Q.　下三坂のこれからについて、期待すること、不安に思うことはありますか？
若者の流出を防ぐ、仕事つくりが必要
若い人が下三坂を離れずに残ってほしいとは思うが、下三坂には働き先がなく、市街地の仕事場には移動の時間がかかるなど、働き盛りの若い人は仕事のために下三坂を離れなくてはいけないという現実的な問題がある。若い人が下三坂に戻ってこれるように、働ける場所がいくつもあればいいのだが。

Q.　下三坂を訪れる若者に期待することはありますか？
農村での暮らしを求めて下三坂に来る若者が、農業の後継者として下三坂に残ってくれれば嬉しい。

Q.　東日本大震災の時の状況を教えてください。
長年畜産業を続けてきたが、震災後は、放射能汚染の影響で、牧草を育てることができず、飼料を購入しなくてはならなかった。牧草地の土をひっくり返して除染を行い、震災から2年が経ってようやくまた牧草を育てられるようになった。

---

⑤ H. Kさん（男性）

Q.　いつから下三坂に住んでいますか？
生まれた時から、76年間下三坂に住んでいる。もともと実家は百姓だった。
百姓は嫌だと思った時期もあったが、いまでは自分の天命だとおもい、
誇りをもって現在も現役で仕事をしている。

Q.　下三坂の好きなところ、魅力をおしえてください。
いわき市の水源地　　水がいい。だから、農作物も美味しい。いわき市の水源地である
下三坂に住む我々が山の手入れや土手の草刈りをしていることで、下流に住む人も
綺麗な水を享受することができていることを、下三坂の魅力のひとつとして、いわき市の人に知ってほしい。

Q.　下三坂のこれからについて、期待すること、不安に思うことはありますか？
産業の担い手不足と、求められる経営感覚
これから最も心配なことは、住民の少子高齢化に伴う、農業・畜産・林業などこれまで地域を支えてきた産業に従事する担い手の減少。さらに、農業は儲からない仕事になってしまっているため、今後の農家は経営感覚も求められるだろう。

Q.　下三坂を訪れる若者に期待することはありますか？
若い人が農村の暮らしに興味を持って下三坂に来てくれることがあれば、ここの暮らしを知るきっかけつくりを手伝いたいと思っている。一方で、ここには、住民ひとりひとりの日常生活があることを理解した上で来てほしいという思いがある。

Q.　東日本大震災の時の状況を教えてください。
発災後、電気、水道が止まっても、不安と思うことはなく、こどものころから下三坂で自給自足のような生活をしてきたので、「こうゆうもんだ」という印象。水は井戸から、暖は炭でとり、ほとんど不便なく暮らすことができた。

⑥ M. Nさん（男性）

Q.　いつから下三坂に住んでいますか？
高校進学、出稼ぎのために離れたこともあったが、生まれてからずっと下三坂に住んでいます。

Q.　下三坂の好きなところ、魅力を教えてください。
福寿草、桜、稲荷神社の杉、滝、宇宙石など、自然の宝が沢山眠っている。

Q.　下三坂のこれからについて、期待すること、不安に思うことはありますか？
農業・林業の担い手不足と、それに拍車をかける風評被害の問題
下三坂で農業・林業をやっている人はほとんどが65歳以上の後期高齢者で、若い人がいない。肥料ばかりが値上げし、米の売値が下がっているので、いまは農業だけでは食べていけないのも実情としてある。さらに、震災後の放射能汚染の影響もあり、農作物、木材なども売れなくなってしまった。この地域はそれほど線量が高いわけではないが、「福島県産」とひとくくりにされることで、県外の人から受け入れられないことも多い。これからの農家は大変だ。

Q.　下三坂を訪れる若者に期待することはありますか？
若い人が下三坂に来てくれることは、本当に嬉しい。ここで農業をやる人がいれば、もっといい。

Q.　東日本大震災の時の状況を教えてください。
炭コタツがあるので、電気が止まっても、それがあれば年中あたたかくいられる。
水は山から引いているし、お風呂は薪で焚いているので、風呂の心配もなかった。

Q.　趣味・特技を教えてください。
山仕事が得意で、近所の人からも山の手入れがあれば頼まれている。

インタビューを終えて

①地域を盛り上げていくためのヒントのひとつは、地域の資源を活かすことと考えています。その資源とは、地域に残る美しい自然・風土であったり、それに由来する歴史、大切に受け継がれてきた固有の文化、そしてそこに暮らす人々…。そういった下三坂に眠る地域資源を、インタビューを通して発見する度に、宝物を見つけたかのようにわくわくしました。
さらに、住民の皆さんとお話する中で感じたのは、問題意識の裏にある、下三坂に活気を取り戻したいという強い想いと、若者に対する大きな期待感。地域のひとのスイッチは入っています。では、みんなの宝物をこれからどう磨いていこうか？若い、新しい風を吹き込みながら、しかし、地域のひととの対話を一番に大切にしていくことで、下三坂がもっと面白く活気のある地域になっていくと信じています。

②昔から下三坂に住んでいる住民の方へのインタビューを通して、話聞くまで知らなかった下三坂の魅力や場所・ものの存在を知ることができました。震災の影響で停電になっても、自分の家にあるものであまり変わらない生活ができる、ということをみなさんが口をそろえておっしゃっていて、すごく感心しました。都市と農村の交流を進めていくことは、こういった田舎の力や、知恵、生活スタイルを見直すことにもつながると思いました。若い人が農村で学ぶことはたくさんあると改めて思いました。

フクシマ環境未来基地
平成25年度　事業報告書

平成26年4月20日発行

編集・発行　フクシマ環境未来基地　事務局
発行責任者　塚本　竜也
連絡先　〒970-1376 福島県いわき市三和町下三坂字永久保40
TEL/FAX　0246-85-2777
MAIL：fukushima@conservation-corps.jp
URL：http://fukushima-c-c.jimdo.com/